

No.77(一九八〇年一月一・二日合併号)から
No.111(一九八〇年二月二日)まで

No.77(一九八〇年一月一・二日合併号)

学習にはげむ

◇岩井章氏にきく◇

日本労働運動と八〇年闘争の課題

◇資料◇同志諸君への訴え(岩井論文全文)

はじめて「政治のあり方」を提起

―日経連『労働問題研究委報告』の特徴①青年の日朝連帯運動について

八〇年と社会党の課題

―いわゆる「社公」をめぐる動きについて

大内教授の主張こそが組合離れの原因

―『道』批判者たちへの反批判』を読んで―

◇緊急号外・好評発売中◇定価五〇〇円

『道』批判者たちへの反批判―

『道』と科学的社会主義の擁護

No.78(一九八〇年一月二日)

不動の構えで反撃へ

―(八〇年春闘、社会党問題への基本視点

労働者に組織の壁はない!

―SSK労愛会が

九二、九六時間ストを反復―

資料①労働組合佐世保友愛会闘争指令五号

「再建大会」で打ち切り宣言

―全電通福島県支部問題について―

資料②百万党建設推進にあたっての要請(全電通東京地本)

われわれには権利がある!

―F・カストロ(キューバ首相)の記者会見(一)―

◇資料◇アフガニスタン情勢について①

資料③アフガニスタン情勢に寄せて(『プラウダ』二月三日論説)

資料④アフガニスタン首相の記者会見

◇緊急号外・好評発売中◇定価五〇〇円

『道』批判者たちへの反批判―

『道』と科学的社会主義の擁護

No.79(一九八〇年二月一日)

◇巻頭言◇プロレタリア国際主義について①

「共産排除」は社会党の民社党化だ

階級的労働運動に激しい敵意

―同盟第一六回大会方針案の焦点―

「アフガニスタン問題」の経過と背景

資料『プラウダ』紙記者の質問に対するブレジネフの回答

われわれは言ったことは実行する

今日のカンボジア―真実とデマ

私はCIAのスパイになりたくない

―カストロ(キューバ)首相の記者会見②

◇緊急号外・好評発売中◇定価五〇〇円

『道』批判者たちへの反批判―

『道』と科学的社会主義の擁護

No.80(一九八〇年二月一日)

「社公政権合意」の意味するもの

党員はふえたが、代議員数は減少?!

右向きに開かれている社公「合意」

◇投稿◇社会党は党の基本性格を堅持せよ

資料①社会党千代田総支部

青年党員会会議参加者一同党強化のための申し入れ

資料②社会主義協会(一月二六日)

「日本社会党と公明党の連合政権についての合意」にたいする意見

資料③アフガニスタン情勢について

友好善隣協力条約に則った

アフガニスタン援助

◇緊急号外・好評発売中◇定価五〇〇円

『道』批判者たちへの反批判―『道』と科学的社会主義の擁護

No.81(一九八〇年二月二日)

◇巻頭言◇安保と社・公

「体制間矛盾」が世界情勢認識の基本
軍事費の五%増加を要請

―米大統領の「一般教書」について―
ソ連の軍事費―真実とウソ

―ソ連の軍事費は米国の五分の一―
八〇年春闘をめぐる労組の動向

大衆討議が社会主義政党的生命

資料① 日本社会党東京本部執行委員会

全電通東京地本の要請の

あつかいの変更について

日米軍事政策の「転換」①

資料② 防衛庁(一九七八年十二月十一日)

リムパックへの海上自衛隊の参加について

◇緊急号外・好評発売中◇定価五〇〇円

『道』批判者たちへの反批判―

『道』と科学的社会主義の擁護

No.82(一九八〇年三月一日)

◇巻頭言◇尻馬に乗って大ケガをするな

社会党の右傾化と左派の活動(上)

―全国大会とこれからの課題―

社会党第四四回大会の意味するもの

資料常松裕志(一九八〇年二月一日)

一九八〇年度運動方針(案)に対する意見書

ソ連は帝国主義勢力とたたかっている

―アフガニスタン問題と国家論―

投稿私の考える「百万党」への道

「安保廃棄」の路線こそが平和への道

―日米軍事政策の「転換」②―

◇緊急号外・好評発売中◇定価五〇〇円

『道』批判者たちへの反批判―『道』と科学的社会主義の擁護

No.83(一九八〇年三月一日)

◇巻頭言◇左派のとまどい

左派の主体的なたたかいが問われる

―社会党大会を終えて―

ことごとく失敗した社公民派の戦術

―社会党第四回大会を傍聴して―

資料常松裕志氏の「意見書」に添えられた「たより」②

一九八〇年度運動方針案に対する意見

徹底的な論議が春闘「再構築」の道

―総評臨時大会を傍聴して―

全通労働運動の現状と課題

―協調路線への転換を示す

八〇春闘方針の特徴―

◇緊急号外・好評発売中◇定価五〇〇円

『道』批判者たちへの反批判―

『道』と科学的社会主義の擁護

No.84(一九八〇年三月二日)

◇巻頭言◇かすんでしまった八%統一要求

社会党の右傾化と左派の活動

―社会党の右傾化と左派の活動④―

労働者の期待に答える日本社会党の建設を!

投稿◇党内民主主義は守られているか

投稿◇第四回大会は

左派勢力の活動のノロシ

◇資料と解説◇

国労が「社公政権合意」で要請書

資料国鉄労働組合

(一九八〇年二月二〇日)

「国民の交通、国民の国鉄」の実現と統一戦線を促進するための要請書

徹底的な論議が春闘「再構築」の道

―総評臨時大会を傍聴して②―

◇トリアル・アンド・エラー―(五)

富塚ダイナミズム?

No.85(一九八〇年四月一日)

◇巻頭言◇

「大衆路線再建・復活元年」の春闘に
左派の組織的力の育成が課題

―社会党の右傾化と左派の活動①―

民社党の変貌とその危険性

地域の連帯行動で全面勝利

―全造船井筒分会一四一のたたかい―

◇資料と解説◇

全通の特別昇給制度問題について

資料①全通京都社会党員協議会

(一九八〇年二月)

特昇省案反対の思想をひろげよう

海員組合役員が総辞職

資料②国労長野地本『青年部ニュース』

(一九八〇年三月四日)

労働運動の右翼的再編成に反対しよう！

◇緊急号外・好評発売中◇定価五〇〇円

『道』批判者たちへの反批判―『道』と科学的社会主義の擁護

No.86(一九八〇年四月一日)

◇巻頭言◇公明党の右傾化と「社公合意」

全面勝利した佐世保労愛会のたたかい

資料①全造船重機・佐世保労愛会

佐世保からのアピール

(佐世保闘争終結にあたって)

大内氏に『道』を云々する資格はない

―向坂逸郎著『マルクスと現代』を読んで

昨年末から「総支部再統一」の機運

―社会党福島県本部をめぐる動向―

投稿役員選挙で一歩前進

―都高教組役員選挙の報告―

投稿「さすが八〇年代」?!

社会主義理論センターの動向について

◇緊急号外・好評発売中◇定価五〇〇円

『道』批判者たちへの反批判―『道』と科学的社会主義の擁護

No.87(一九八〇年四月二日)

◇巻頭言◇団結集会の成功と青年の活動

われわれの守るべき『道』の路線とは何か

民鉄協離脱は資本の高度な戦術

—私鉄京成労組の仲間からの報告—

エスカレートする破壊工作

—アフガニスタン情勢について—

◇投稿◇思想的団結の強化を痛感

—鹿児島県社会党・県総評の政治学校から

沖電気闘争—その後の動向

◇トライアル・アンド・エラー—(四)

弁証法の欠如

◇緊急号外・好評発売中◇定価五〇〇円

『道』批判者たちへの反批判—『道』と科学的社会主義の擁護

No.88(一九八〇年五月一日)

◇巻頭言◇

労働運動の階級的強化へ、

統一労組懇の誤りも克服へ

統一労組懇問題を論ず①

◇資料と解説◇統一労組懇問題について

資料①統一労組懇活動方針

資料②統一労組懇の運営要綱

資料③共産党第一五回大会決議から

吹き荒れる資本主義的合理化の嵐

—「合理化」反対のたたかいが当面の課題

◇投稿長野の仲間からの報告◇

団結集会に二一七〇名が結集

なりふりかまわぬ独占擁護の路線

—民社党第一五回大会運動方針から—

◇緊急号外・好評発売中◇定価五〇〇円

『道』批判者たちへの反批判—『道』と科学的社会主義の擁護

No.89(一九八〇年五月二一日)

◇巻頭言◇反帝国主義の視点の確立を

“力”をどうつくるかが問われている

—八〇春闘の意味するもの①—

資料①賃金決定に生産性原理の貫徹を(日経連タイムス「主張」)

資料②J.C四単産のリーダーシップが

労働界の健全化への道(J.C回答への新日鉄資本の感想)

なぜ統一労組懇は「克服」されねばならないか

—統一労組懇問題を論ず②—

資料③総評・統一労組懇への態度

(三月三一日)

資料④統一労組懇・総評の態度への反論

岩井章氏が「社会党左派の総結集」を提言

レーニンと政治的説得の技術

本誌拡大のおねがい

—◇緊急号外・好評発売中◇定価五〇〇円

『道』批判者たちへの反批判—

『道』と科学的社会主義の擁護

No.90(一九八〇年五月二一日)

特集・春闘と参院選を考える

◇巻頭言◇なぜ「管理春闘」なのか?

総評強化が社会党右傾化阻止への道

—八〇年春闘の意味するもの(二)—

日経連が注目する全電通の「春闘見直し」論

◇投稿◇鹿児島からの報告◇

鹿児島市議選で大勝利

◇山形県南陽市からの報告◇

日頃の組織づくりが勝利の力

ライアン制裁の裏にあるもの

本誌拡大のおねがい

◇出版案内◇

岩井・灰原著『七〇年代労働運動の総括と八〇年代労働運動への提言』紹介

◇緊急号外・好評発売中◇定価五〇〇円

『道』批判者たちへの反批判—『道』と科学的社会主義の擁護

No.91(一九八〇年六月一日)

特集・春闘・私鉄京成闘争を考える

◇巻頭言◇なぜ「自制春闘」なのか？

◇春闘座談会①◇

階級的労働運動の原点を示す京成労組

実態からの運動が原点―私鉄京成労組のたたかいから―

統一労組懇の実態を京都にさぐる

読者からの意見

◇出版案内◇岩井・灰原編著

『七〇年代労働運動の総括と八〇年代労働運動への提言』

◇緊急号外・好評発売中◇定価五〇〇円

『道』批判者たちへの反批判―『道』と科学的社会主義の擁護

No.92(一九八〇年六月一日)

◇巻頭言◇今こそ非武装・中立を高くかかげよ！

衆・参両院選挙をめぐる政治情勢

◇春闘座談会◇

生活が教える資本主義合理化の本質―八〇年春闘を語る②

アメリカに大不況？

「朴なき朴体制」―韓国民民主化圧殺の波

華国鋒訪日に寄せて

◇出版案内◇岩井・灰原編著

『七〇年代労働運動の総括と八〇年代労働運動への提言』

◇緊急号外・好評発売中◇定価五〇〇円

『道』批判者たちへの反批判―『道』と科学的社会主義の擁護

No.93(一九八〇年六月二日)

◇巻頭言◇華国鋒はよい商いをした？

独占資本の政治路線―内閣不信認案可決と独占の動向―

◇座談会八〇年春闘を語る②◇

問われる階級的労働運動の原則

統一労組懇の実態を大阪にさぐる

マイアミ暴動の意味するもの

資本主義体制の動揺に苦悩―日経連の春闘総括から―

◇出版案内◇岩井・灰原編著

『七〇年代労働運動の総括と八〇年代労働運動への提言』

◇緊急号外・好評発売中◇定価五〇〇円

『道』批判者たちへの反批判―『道』と科学的社会主義の擁護

No.94(一九八〇年七月一日)

◇巻頭言◇第二、第三の光州蜂起は必然

総評結成三〇周年大会方針には不適格

―総評第三回拡評と運動方針の骨格を論ず

資料①総評第三回拡評(一九八〇年五月二六日)

「統一労組懇」に対する態度について

全電通・J.C路線をあげしく批判

―国労第一二八回臨時中央委報告―

J.C内部に亀裂

―電機、鉄鋼、同盟の春闘総括―

◇投稿日本社会党県本大会報告◇

県本大会で問われたもの

◇投稿千葉県習志野総支部大会報告◇

非武装・中立タナ上げ報道で意見書

資料②日本社会党習志野総支部意見書

原野人『エネルギーのゆくえ』を奨める

この書なくして「八〇年代」はわからない

◇出版案内◇岩井・灰原編著

『七〇年代労働運動の総括と八〇年代労働運動への提言…』

No.95(一九八〇年七月一日)

◇巻頭言◇大衆闘争の高揚をはかれ

◇座談会同時選挙を考える①◇

自民「圧勝」の背後にあるもの

統一労組懇は新ナショナルセンターとなるか？

資料統一労組懇が総評の批判に見解

介入論は的はずれ

全斗煥の蛮行を告発

―光州事件の目撃者の証言①―

革命は新しい第二段階に入った

―アフガニスタン革命二周年式典

でのカルマル首相の演説―

◇出版案内◇岩井・灰原編著

『七〇年代労働運動の総括と八〇年代労働運動への提言…』

No.96(一九八〇年七月二一日)

特集・衆参同時選挙を考える

◇巻頭言◇『連合』は幻影となった

破産し二つの路線―二つの右翼日和見主義について―

◇座談会同時選挙を考える⑥◇

破産した『中道連合政権』構想

◇投稿東京五区からの報告◇

鋭かった社会党の路線への批判

◇資料と解説◇

全電通東京が東京五区で公明候補を推せん

◇出版案内◇岩井・灰原編著

『階級的労働運動への道―七〇年代労働運動の総括と八〇年代労働運動への提言』

No.97(一九八〇年八月一日)

◇巻頭言◇総評三〇周年記念大会に望む

◇座談会同時選挙を考える⑦◇

社会党は基本路線を堅持せよ

◇投稿京都からの報告◇

社会党・総評に不当な弾圧

総評指導部をきびしく批判―私鉄総連第五回中央委報告―

資料私鉄総連春闘総括(要旨)

ブリッジ共闘を拡充

タイ・カンボジア国境衝突について―ベトナムの「侵略」はデッチ上げ―

光州は人民蜂起の戦場となった―光州事件の目撃者の証言②―

キューバ「難民問題」について

◇出版案内◇岩井・灰原編著

『階級的労働運動への道―七〇年代労働運動の総括と八〇年代労働運動への提言』

No.98(一九八〇年八月二一日)

◇巻頭言◇「大義名分」主義がもたらすもの

◇資料と解説◇

岩井章氏が左派結集の『構想』を提示

資料大結集のための提案(岩井論文)

◇座談会同時選挙を考える(続)◇

資本主義的合理化、政治反動とたたかう構えを

光州市民虐殺事件その後

◇出版案内◇岩井・灰原編著

『階級的労働運動への道―七〇年代労働運動の総括と八〇年代労働運動への提言』

No.99(一九八〇年八月二一日)

◇巻頭言◇政府・独占の反動攻勢を許すな

総評の路線を真正面から論議―総評第六一回大会の意味するもの―

全通第三三回定期全国大会の課題

◇投稿◇都高教定期大会報告◇

右翼再編に反対し労働運動の組織的強化を決定

深刻化するアメリカ不況

◇出版案内◇岩井・灰原編著

『階級的労働運動への道―七〇年代労働運動の総括と八〇年代労働運動への提言』

No.100(一九八〇年九月一日)

◇巻頭言◇鈴木内閣と軍事大国への道

ヒトラーは生れないか向坂逸郎

労働運動強化の二つの課題

反合理化闘争路線が焦点―第四二回国労全国大会に注目しよう―

全電通第三三回大会運動方針の特徴点

好評発売中岩井章・灰原茂雄編著

階級的労働運動への道―七〇年代労働運動の総括と八〇年代労働運動への提言―

定価一二〇〇円(郵送料一六〇円) B6判

No.101(一九八〇年九月二一日)

◇巻頭言◇総合安保体制のねらいは何か

◇座談会◇

総評結成三〇年、三池闘争二〇年を語る⑤

今、若者に問われていること

岩井章(元総評事務局長)

灰原茂雄(元三池労組書記長)

交通共闘主軸は不変―私鉄総連第四四回大会報告―

失業者は一千五百万人を越える?

―『就業構造基本調査』の示すもの―

ペルシヤ湾防衛を宣言

―軽井沢「トップ・セミナー」で

大槻会長ごあいさつ―

好評発売中岩井章・灰原茂雄編著

階級的労働運動への道

―七〇年代労働運動の総括と八〇年代労働運動への提言―

定価一二〇〇円(郵送料一六〇円) B6判

No.102(一九八〇年九月二一日)

◇巻頭言◇組合大会を傍聴して

今日の情勢の特徴について

◇座談会◇

総評三〇年、三池闘争二〇年を語る④◇

「経営方針変革闘争」は卓見だった

岩井章(元総評事務局長)

灰原茂雄(元三池労組書記長)

俺たちは反マル生闘争に誇りをもつ

―四・二八処分者からの報告―

◇一社会党员からの投稿◇

うごめき出した「憲法改悪」策動

好評発売中岩井章・灰原茂雄編著

階級的労働運動への道

―七〇年代労働運動の総括と八〇年代労働運動への提言―

定価一二〇〇円(郵送料一六〇円) B6判

No.103(一九八〇年一〇月一日)

◇巻頭言◇社会党の危機は続いている

現段階の政治情勢とその特徴

―「私の政治」の本質は自民・独占の“和”―

エンゲルス『空想から科学へ』百年

◇座談会◇総評結成三〇年、

三池闘争二〇年を語る⑤

左派結集の構想とそのねらい

岩井章(元総評事務局長)

灰原茂雄(元三池労組書記長)

『階級的労働運動への道』を読む

◇資料ブラウダ紙九月一日号の論評◇

社会主義ポーランドの敵の策動

好評発売中岩井章・灰原茂雄編著

◇階級的労働運動への道

―七〇年代労働運動の総括と八〇年代労働運動への提言―

定価一二〇〇円(郵送料一六〇円) B6判

No.104(一九八〇年一〇月一日)

◇巻頭言◇社会党国会議員に望む

唯物史観は崩壊したか

―大内秀明氏の理論と思想⑤―

運動をつくる構えこそが課題

―国労・第四二回大会の報告―

日教組運動強化の道

―日教組盛岡大会によせて④―

クーデター七年後のチリ

『朝日』が社会主義理論センターの動向を報

好評発売中岩井章・灰原茂雄編著

階級的労働運動への道

―七〇年代労働運動の総括と

八〇年代労働運動への提言―

定価一二〇〇円(郵送料一六〇円) B6判―

No.105(一九八〇年一〇月二二日)

◇巻頭言◇燃えるような“論争”を開始しよう

『道』の最大の意義を否定

―社会主義理論センターの学者グループ報告について―

基本矛盾の誤認と「多元的国家」論の帰結

―大内秀明氏の理論と思想④―

日教組運動強化への道

―日教組盛岡大会によせて③

イラク・イラン紛争で利益をえるのはだれか

編集部からのお知らせ

No.106(一九八〇年十一月一日)

◇巻頭言◇創刊三周年にあつて

◇社会主義理論センター学者グループ「報告」について②◇

「多極化」しているのは資本主義世界

「多元的国家論」の帰結と社会党の運動

―大内秀明氏の理論と思想③―

◇投稿◇

若い代議員の発言が印象に残った

都本部大会

中国石油ブームの壮大なデマ

No.107(一九八〇年一月一日)

◇座談会◇組合大会をふりかえって⑤ 階級的労働運動への道をさぐる

報告①日教組盛岡大会から 左派の再結集が日教組強化への課題

報告②全電通山口大会から 「春闘見直し」論に矛盾続出

報告③全通東京大会から

基本路線は守られたが、これからが正念場

◇社会主義理論センター学者グループ「報告」批判③◇

支離滅裂な「国家」論とその帰結

今後二年間が勝負のとき? —「労働戦線統一推進会」の発足について

沖電気指名解雇撤回支援共闘会議が二月一七日に集会を開催

No.108(一九八〇年一月二日)

巻頭言◇社会党第四五回大会の意義と課題

◇社会主義理論センター学者グループ報告批判④◇

資本主義への全面的拝脆

◇資料『道』問題で毎日新聞が向坂逸郎氏にインタビュー◇

社会主義への道はずすな

強化された革命の基盤—カルマル・アフガニスタン首相の演説—

「統一推進会」第二回会合について

沖電気支援共闘が十一月十七日に二周年集会

◇残部僅少!◇『道』批判者たちへの反批判

『道』と科学的社会主義の擁護 定価五〇〇円(郵送費含)

No.109(一九八〇年二月一日)

特集社会主義理論センター「中間報告」の検討

◇巻頭言◇「燃えるような論争」を

反帝国主義の視点を欠く国際情勢分析

世界史の流れに眼をそむける／反帝・社会主義の優位がなぜ見えぬか／米・中・日の

集団安保に対決するのかしないのか／日本帝国主義とのたたかいを

資本主義を賛美する国内情勢分析

階級矛盾なき「国家」論／民間大企業での「参加と介入」は何をもたらしているか／

「体制の組織化は根底的に動揺」した?／空虚な「脱工業化と一億総中流」論／労働

者の要求と運動は質的に転換した?／独占資本のもとで「産業、生活、雇用構造をト

ータルに変革」できる?／第二民社党への道

社会主義のない「平和・移行」論

搾取論なき「社会主義」論／あいまいな「社会化」論／階級闘争、革命なき「社会主

義」

◇投稿◇納得できぬ理論センター中間報告

No.110(一九八〇年二月一日)

◇巻頭言◇右寄り強める民社党

マルクスと「窮乏化」作用の法則

―理論センター学者グループ「報告」に寄せて―

◇資料と解説◇

二〇二億円スト権損賠と国鉄労働組合

◇国労盛岡地本盛岡支部職場討議資料◇

国労の路線は変わったか？

◇一読者からの投稿◇

いかなる差別も許さない労働者思想を

◇残部僅少！◇定価五〇〇円(郵送費含)

『道』批判者たちへの反批判―『道』と科学的社会主義の擁護

No.111(一九八〇年二月二日)

巻頭言◇社会党第四五回大会が意味したもの

◇国労第一三〇回中央委員会報告◇

大衆闘争の高揚をはかることが課題

―平和協定はのまぬし、現協も守る―

くいちがう情勢分析の視点

―「中期経済政策」と「学者報告」に関連して―

◇投稿◇社会主義理論センター報告について

「反合理化」闘争を放棄する報告

着実に再建の道を進むカンボジア

◇投稿◇都労連闘争に全力を

八一春闘をめぐる賃金要求の状況について

定価改訂のお知らせ